

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2023 年度 第 3 回 高大連携委員会
議事次第

日 時：2023 年 11 月 28 日（火）9:00～10:30

開催場所：オンライン（Zoom）

委 員 校：関西国際大学（委員長校）、神戸親和大学（副委員長校）

関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学
神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、
頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、
兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 計 18 校

I. 協議事項

1. 2023 年度高大連携委員会事業自己評価について (資料 1)
2. その他

II. 報告事項

2023 年度事業の進捗状況について (資料 2)

1. ひょうご高校大学コンソーシアム 2023
2. 加盟校の情報発信について
2. その他

III. 懇談事項

1. 大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について (資料 3)
2. その他

IV. 連絡・調整事項

1. 2023 年度の高大連携委員会開催予定と主な議題について
第 5 回委員会 2 月：2024 年度 事業計画・予算（案）
第 6 回委員会 3 月：2023 年度 事業報告・決算（案）
2. その他

以上

<資料一覧>

資料 1 : 2023 年度 高大連携委員会事業 自己評価（案）

資料 2-1 : ひょうご高校大学コンソーシアム 2023

資料 2-2 : ひょうご高校大学コンソーシアム 2023（参加予定高校）

資料 2-3 : ひょうご高校大学コンソーシアム 2023 高校アンケート回答

資料 3 : 大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について

委員長校：関西国際大学

副委員長校：神戸親和大学

委員校：関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、
神戸松蔭女子学院大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、頌栄短期大学、
園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、
兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 計18校

<目的>

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題②】県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続

上記の体制の構築並びに、必要な新規のプロジェクト事業は本委員会にて実施する。

<内容>

取組課題②に対する「個別取組」は、下記の通り。

1. 大学と高等学校の意見交換会の実施
教育委員会等と連携して、兵庫県下の高等学校と大学との意見交換の場である「ひょうご高校大学コンソーシアム」等において、兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換を行う。
2. 加盟校の魅力を情報発信
加盟校に関する情報発信を強化し、加盟校への進学率の向上を図る。
生徒が高校生から大学生、社会人になるまでの学びのルートマップを描けるような情報を発信する。

上記の取組について、運営体制の構築と推進は、中長期計画Ⅱ期5か年において段階的に取り組む。
期中において新規事業やプロジェクト企画の必要性がある場合は、本委員会にて検討して事業推進を行う。

<期待される効果>

1. 大学と高等学校の意見交換会の実施

兵庫県立高等学校と設置した意見交換の場「ひょうご高校大学コンソーシアム」を継続的に開催していくことにより、県下大学と高校の高大連携をめぐる多くの課題を共有し、県内大学と高校における教育の連携を通じた人材育成の取り組みを促進する。大学と高校教職員の相互理解と人的ネットワークを構築が期待できる。

2. 加盟校の魅力を情報発信

高校並びに教職員・学生に対して、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の魅力を伝えることで、大学での学びに対する理解を深め、進路選択と県内大学への進学率の向上に寄与する。さらには、生徒の大学進学後の学生生活の充実と大学で主体的に学び続ける意欲を高める効果が期待できる。

課題② 県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続		予算額
取組1	大学と高等学校の意見交換会の実施 「ひょうご高校大学コンソーシアム」	200,000円
取組2	加盟校の魅力を情報発信	300,000円

【2023年度 高大連携委員会 自己評価(②取組1)】

【②取組1】達成目標	各年参加校数20校以上			
【②取組1】活動指標	意見交換会等の実施/年1回以上			
課題②	県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続			
達成目標 【②取組1】	各年参加校数20校以上			
課題を解決する 取組概要 【②取組1】	大学と高等学校の意見交換会の実施 「ひょうご高校大学コンソーシアム」			
活動指標 【②取組1】	意見交換会等の実施/年1回以上			
内容 (結果)	「ひょうご高校大学コンソーシアム」の開催 兵庫県下の県下高等学校・教育委員会・加盟校との意見交換の場である「ひょうご高校大学コンソーシアム」を開催する。 ・県下大学と高校の高大連携をめぐる具体的な課題を共有し、県内大学と高校における教育の連携を通じた人材育成の取り組みを促進する。 ・2016年から実施している本取組を継続開催することで、大学と高校教職員の相互理解と人的ネットワークの構築を図る。 イベント名「高大連携と選抜・探究学習について ～社会で活躍できる人材育成に向けて～」 開催日:2023年12月11日(月)13:30～16:30(予定) 会場:対面(兵庫国際交流会館) 対象:兵庫県下の高校教職員・大学教職員等 内容:基調講演・意見交換会(2部制) <第1部>基調講演 講師:株式会社Brain 代表取締役社長 神戸 壽 様 <第2部>高校と大学の意見交換会 1)1部基調講演を踏まえて、企業・高校・大学の連携による課題解決に向けた意見交換。 2)大学選抜の事例紹介(総合型選抜等で入試制度に「探究学習」の成果を対象とする加盟校)			
新しい試み等 (事業計画に記載)	兵庫県内の高校教育、大学教育の一体的な連携に取り組むべく、社会で活躍する人材育成の観点から、初めて地元企業経営者を交えた意見交換会を実施する。			
事業収支	収入	支出	収支	備考
	200,000	3,420	196,580円	
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	4
	2014年度から兵庫県高等学校校長会ならびに兵庫県教育委員会と連携を続けながら、高校と大学の教職員が一同に会して、今日的な高大接続や高大連携の課題について、率直な意見交換を継続していることは、高校と大学の教職員の相互理解を深める観点でも貴重な機会となっている。2023年11月現在、本プログラムは、当初計画通りに進行しており、継続すべきと考える。			
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	■自己評価基準 (対到達目標) 4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った			
	■自己評価基準 (対継続性) 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき			

【2023年度 高大連携委員会 自己評価(②取組2)】

【②取組2】達成目標	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上		
【②取組2】活動指標	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載・アンケート等の実施/年1回以上		
課題②	県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続		
達成目標 【②取組2】	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上		
課題を解決する 取組概要 【②取組2】	加盟校の魅力を情報発信		
活動指標 【②取組2】	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載・アンケート等の実施/年1回以上		
内容 (結果)	下記の通り、大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページに県内大学等の情報を掲出した。 1.「オープンキャンパス」 2022年度までは大学等の「オープンキャンパス情報」の一覧のみを掲出していたが、一覧とカレンダーでの確認ができるようになった。 2.「まなび発見マップ」 「分野」、「大学名」、「フリーワード」から検索することが可能となった。 3.「知りたい！探求学習」 探究学習を推進している加盟校の取組事例を紹介、各校にてホームページでの紹介があるところについてはリンク先を掲載。「学校名」、「取組と内容」、「問い合わせ先」を掲出。現在「神戸大学」、「研究活動に焦点をあてた科学技術人材育成プログラム:「JSTグローバルサイエンスキャンパスROOTプログラム」、「問い合わせ先」を掲載中。その他大学は照会中。 4.「学園祭」 2022年度までは大学等の「オープンキャンパス情報」の一覧のみを掲出していたが、一覧とカレンダーでの確認ができるようになった。		
新しい試み等 (事業計画に記載)	高大連携に関する情報共有の一環として、ホームページでの掲出方法やデザインを改善し、生徒が加盟校の情報をより分かりやすく得られるようにした。加えて、2022年度高等学校学習指導要領に「総合的な探究の時間」導入されたことから、「探究学習」に関する加盟校の情報も新たに掲載。		
事業収支	収入	支出	収支
	300,000円	139円	299,861円
自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】
	高校と大学の学びの接続、教育の連携の観点から、高校・高校生等に加盟校の特徴を広く情報提供することは、重要な課題と考える。コンソーシアムホームページ上での加盟校の情報発信等は、次年度以降も継続する必要があると考える。		
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った		
	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき		

ひょうご高校大学コンソーシアム 2023 実施要項
一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

概要：兵庫県内の高校教育、大学教育の一体的な連携に取り組むべく、2014年度より県下高等学校と大学コンソーシアムひょうご神戸（県下 38 校大学・短期大学・高等専門学校が加盟する大学間連携組織）、兵庫県教育委員会が連携して意見交換会「ひょうご高校大学コンソーシアム」を開催している。2022 年に高等学校学習指導要領において「総合的な探究の時間」が導入されるにあたり、探究学習と教育活動の課題解決に向けて高校と大学で意見交換を 2 年間、継続開催してきた。

今年度も引き続き「探究学習」を取り上げ、「高大連携と選抜・探究学習について ～社会で活躍できる人材育成に向けて～」と題し、高校時代の「探究学習」における生徒の学びが、一歩進んだ将来の進路選択、大学進学後の学生生活、人生とキャリアに与える影響・発展の可能性を具体的な事例をもとに意見交換する。

記

1. 開催日：2023 年 12 月 11 日（月）13:30～16:30（予定）
2. 会 場：対面（兵庫国際交流会館：兵庫県神戸市中央区脇浜町 1 丁目 2-8、JR 灘・阪神岩屋駅）
*オンライン併用については検討中
3. 対 象：兵庫県下の高校教職員・大学教職員等
4. テーマ：高大連携と選抜・探究学習について ～社会で活躍できる人材育成に向けて～
5. 内 容：基調講演・意見交換会（2 部制） ※スケジュールは一部変更する場合あり
 - <第 1 部>基調講演 講師：株式会社 Brain 代表取締役社長 神戸 壽 様
演題「高校生の探究学習と大学の学びへの連携について～兵庫県立小野高校での取組から（仮題）」
 - <第 2 部>高校と大学の意見交換会
 - 1) 1 部基調講演を踏まえて、企業・高校・大学の連携による課題解決に向けた意見交換。
 - 2) 大学選抜の事例紹介（総合型選抜等で入試制度に「探究学習」の成果を対象とする加盟校）
・関西学院大学・神戸大学・神戸親和大学（話題提供校）他
6. 参加費：無料

（ご依頼）「事前アンケート」（内容添付）・当日の「参加連絡票」（Web 申込）について：

本会に向けて、下記 Web フォームよりご回答の上、お送りください。

- ・アンケート URL <https://forms.gle/HGkBF1QvLJuGKrWn8>
- ・参加連絡票 <https://forms.gle/nhhqX7MWWjXLhu679>
- ・回答締切：2023 年 12 月 6 日（木）

主催・問い合わせ：

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 高大連携委員会

大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当・中水・沓脱・江川）

E-mail info@consortium-hyogo.jp TEL：078-271-0233 /070-5435-9284

後援 兵庫県教育委員会(予定)

以上

ひょうご高校大学コンソーシアム2023（11月27日現在申込者）

No	学校名	職名	参加方法
1	伊丹北高等学校	教諭	1.会場参加
2	伊丹北高等学校	教諭	1.会場参加
3	伊丹北高等学校	校長	1.会場参加
4	加古川東高等学校	進路指導部長	1.会場参加
5	香寺高等学校	教諭	1.会場参加
6	佐用高等学校	教諭	1.会場参加
7	三田学園高等学校	副校長	1.会場参加
8	三田学園中・高等学校	校長	1.会場参加
9	三木高等学校	教諭	1.会場参加
10	篠山産業高等学校	教諭	1.会場参加
11	篠山東雲高等学校	校長	3.いずれかの方法
12	飾磨工業高等学校 多部制	教頭（1・2部）	1.会場参加
13	神戸甲北高等学校	キャリア支援部長	3.いずれかの方法
14	神戸龍谷高等学校	進路指導部長	3.いずれかの方法
15	神崎工業高等学校	校長	1.会場参加
16	神崎高等学校	進路人権部	3.いずれかの方法
17	須磨友が丘高等学校	教諭	1.会場参加
18	生野高等学校	教諭	1.会場参加
19	西脇工業高等学校	教諭	1.会場参加
20	西脇工業高等学校	臨時教諭	1.会場参加
21	青雲高等学校	教諭、進路指導部長	3.いずれかの方法
22	千種高等学校	教頭	3.いずれかの方法
23	大学附属高等学校	主幹教諭	1.会場参加
24	東灘高等学校	教諭	1.会場参加
25	尼崎市立琴ノ浦高等学校	校長	1.会場参加
26	姫路飾西高等学校	教諭	3.いずれかの方法
27	姫路東高等学校	教諭	1.会場参加
28	宝塚高等学校	主幹教諭・教務部長	1.会場参加
29	宝塚北高等学校	教諭	1.会場参加
30	宝塚北高等学校	校長	2.オンライン参加（Zoom）
31	夢野台高等学校	校長	1.会場参加
32	明石城西高等学校	校長	1.会場参加
33	明石清水高等学校	校長	1.会場参加
34	明石西高等学校	教頭	2.オンライン参加（Zoom）
35	明石北高校	教諭	1.会場参加
36	明石北高等学校	校長	1.会場参加

会場参加	27
オンライン参加	2
いずれかの方法	7
高校教員：合計	36

ひょうご高校大学コンソーシアム2023 高校アンケート回答（2023年11月27日現在）

高校No	役職	Q1-1. 高校における「探究学習」の成果が大学入試の「総合選抜」または「その他選抜」の対象となることについて、関心がありますか？	Q1-2. 上記Q1-1で「1.関心がある」と回答いただいた方は、具体的にどのような観点・内容に、関心がありますか？ 簡単に結構ですので、ご記入ください。	Q2-1. 「探究学習」と「進路指導」についてお尋ねします。「探究学習」での成果を「進路指導」で活用していること（キャリア教育、入試制度など）はありますか？	Q2-2. 高校での「探究学習」の成果を「進路指導」や「選抜」につなげる上で、困っていることや、大学に聞きたいことがあれば、お書きください。【例】選抜を実施している大学がよくわからない（探究学習の進路指導へのつなげ方、併願校・生徒の入試準備）など	Q3. 意見交換会で大学と意見交換したいことがあれば、どのようなことでもお書きください。
1高校	校長	1.関心がある	どのような探究をどれくらい深くすべきなのか？エビデンスはどのようなものが求められるか？	1.ある	どのような探究をどれくらい深くすべきなのか？エビデンスはどのようなものが求められるか？	どのような探究をどれくらい深くすべきなのか？エビデンスはどのようなものが求められるか？
2高校	校長	1.関心がある	普通科の探究学習は専門高校や専門学科の課題研究のレベルに達していないと思います、その成果が総合選抜に耐えうるかが気になります。	2.ない	大学での志望学科と探究学習のテーマはリンクしていないといけないのか。	
3高校	校長	1.関心がある	どのような観点で評価されるのか。	2.ない	どこの大学でどのような活動が評価されるのかという情報が乏しいので、体系的に生徒の指導につなげられない。高校側に実績がないからわからないのだから、情報が無いので手を出しにくい、勧めにくいというのが現状。	
4高校	校長	1.関心がある	総合型選抜で入学した学生が、授業についているか。大学生活をどのように送り、卒業していているか。	2.ない		
5高校	校長	1.関心がある	高校での学びを継続して続けることができる機会に繋がると考えているため	3.どちらでもない（判断できない）	高校現場での探究活動が確立されていないため、進路でのアピールに繋がっていない	どのような内容で、どれくらいの頻度で高校とかわらわっていただけたのか
6高校	校長	3.どちらでもない（現状で判断できない）		3.どちらでもない（判断できない）	選抜を実施している大学や実施内容がよくわからない。（農業科や家政科の専門学科対象）	
7高校	教頭	1.関心がある	総合型選抜をはじめとする年内入試において、国立大学がどのように考えているのか。	1.ある	どの程度、大学入試を見据えて指導するのがよいのか。国公立はどうか。教員がスキルアップするにはどうするのがよいのか。学校全体を動かす手立ては。	
8高校	教頭	1.関心がある	どのような「探求」や力を大学が求めているのか。高校教員が必要な指導力はあるのか。	1.ある		
9高校	教頭	1.関心がある	探究学習の成果が、各高校内で、そして大学入試の際に、どのような観点から、どのように評価されるのか。	1.ある, 2.ない		

10高校	進路指導部長	1.関心がある	どのような探究活動がどの程度の評価になるのか知りたい。 他校がどのような活動をしているか知りたい。	3.どちらでもない(判断できない)	総合型で活動成果をPRをして入った場合、基礎学力等の面で、その後の大学生生活で困難に当たるケースはどのようなケースか。 他校の状況を参考にしたい	探究活動に優れ、活動意欲は高いが、低学力な生徒の入学をどのように捉えられているかお伺いしたい。	10高校
11高校	進路指導部長	3.どちらでもない(現状で判断できない)		2.ない		指定校や総合型選抜などの悩みを聞いていただきたいです	11高校
12高校	進路指導部長	1.関心がある	大学での学びと直接的な関係性がない探究活動も評価されるのか？	1.ある			12高校
13高校	教務・中高大連携部長	1.関心がある	大学では、探究の内容や発表・プレゼンテーション実施の有無について、レベルや必要性をどの程度までと考えているか。	1.ある	探究学習の成果を選抜に取り入れている大学一覧やその具体的な内容はどのようなものか。	大学は選抜において、探究に取り組んだ生徒の何を見ているのか。	13高校
14高校	進路指導部長	1.関心がある	★応募用紙の段階で探究活動の成果を求めないで★ 「実態として」通信制の学校に、探究活動がない。 よって、探究活動の成果を求められると、担任は「作文」をすることになる。 通信制の学校でも優秀な生徒がいるが、応募の段階で求められると、「大学にとつて」も「生徒にとつても」機会損失になる。 例えば、某短期大学の推薦書類の一つに、A4サイズの下半分が「探究活動の成果」を記載する欄があり、担任による十教行の「作文」が必要である。 だが、上記のように「実態としてないもの」は、ない。 でも、「書かなければならない」状況にある。 ★なぜ探究活動ができないのかを理解して★ 通信制はそもそも「通信制」のため、学校に生徒がいない。かつ、「年間16回」しかない登校日で、「全教科全科」 どのような成果物であれば大学に認めていただけるのか。 大学側が求めている水準	2.ない	★応募用紙の段階で探究活動の成果を求めないで★ 「実態として」通信制の学校に、探究活動がない。 よって、探究活動の成果を求められると、担任は「作文」をすることになる。 通信制の学校でも優秀な生徒がいるが、応募の段階で求められると、「大学にとつて」も「生徒にとつても」機会損失になる。 ★「理想論、べき論」こそ教員や生徒の大きな障害★ 実態として探究活動は行える状況ではない。 このことをよくよく理解してほしい。 通信制には、探究活動の成果を求めないよう、よくよく、お伝えください。	★切り捨てないで★ 通信制は、「不登校」の受け皿という実態がある。 イジメ、HSP、、、などで仕方なく...という社会的マイノリティの受け皿である。 よって、能力の高い生徒も当然いる。 そういった生徒、学校、保護者を「切り捨てないで」ほしい。 どうかよろしくお願いします。	14高校
15高校	キャリア支援部長	1.関心がある, 2.関心がない		3.どちらでもない(判断できない)	探究学習の進路指導へのつながり方		15高校
16高校	主幹教諭	1.関心がある		2.ない		大学がどのような学生を求めているのか(アドミSSIONポリシー)を、生徒へ直接お話し頂く機会を増やしていきたいと考えています。	16高校
17高校	主幹教諭・教務部長	1.関心がある	どのような進路指導を行ってほしいのか	3.どちらでもない(判断できない)	例に挙がっている事柄について聞いてみたい		17高校

18高校	進路ガイダンス部	1.関心がある	近年、総合型選抜・学校推薦型選抜が拡大していく中で、「探究学習」「課題解決学習」を出願要件にしている大学も増えているが、どの程度のレベルの研究をしていることを想定しているのか。	1.ある	人文科学系はまだしも自然科学系の研究「成果」は理数系学科・コースを有する学校と比べると設備面からどうしても劣ってしまう。「研究結果」はどれぐらい重要であるか。(発想力や着眼点でどれぐらい評価してくれるか。)	人文科学系は自然科学系の研究「成果」は理数系学科・コースを有する学校と比べると設備面からどうしても劣ってしまう。「研究結果」はどれぐらい重要であるか。(発想力や着眼点でどれぐらい評価してくれるか。)
19高校	進路指導部長	1.関心がある	評価基準がどう設定されるのか。	1.ある	評価基準がわからない。	出願時のフォーマットを統一してほしい。
20高校	進路人権部	1.関心がある	探究学習の成果のブレゼンテーションを課す入試における制限時間や評価規準等	1.ある	準備期間の逆算のため、探究学習の成果のブレゼンテーションを課す入試の実施時期	探究学習の成果のブレゼンテーションを課す入試では、どの程度の研究深化でよいのか (問題点の集約でよいのか、解決法の提案や実践までが必要か)
21高校	キャリア推進部 副部長	1.関心がある	どの程度、探究学習で身につけた力をみる動きがあるのか？1回の面接で終わるのではなく、回を重ねるなど、お手間はかかるかとは思いますが、学力検査と同じように、長い期間をかけて学習してきたものを、しっかりと判断するような入試内容であるのかどうか？	1.ある		
22高校	教諭	1.関心がある	どのように評価されるのか	1.ある	他高校の状況を聞いてみたい (探究学習の進路指導へのつなげ方)	
23高校	教諭	1.関心がある	探究学習の「成果」とは具体的にどのような部分が評価されることになるのか。またその他の入試方式と比べてどの程度重要視(期待)しているのか。	1.ある		
24高校	教諭	1.関心がある	探究学習が入試にどのように生じるか。	2.ない	他高校の探究学習の実際について知りたい。	探究学習にどのようなことを求めているか。
25高校	教諭	1.関心がある		1.ある		
26高校	教諭	1.関心がある	普通科の探究学習と工業科の課題研究との違いが大学入試ではどの様に扱われるのか。	1.ある	他高校の状況を聞いてみたい。普通科の探究学習と工業科の課題研究との違いが大学入試ではどの様に扱われるのか。	高大連携のように、共同研究できるような取り組みなどはありませんか。
27高校	教諭	1.関心がある	各大学がどのような点を評価項目として挙げているかに関心があります。	3.どちらでもない(判断できない)		
28高校	教諭	1.関心がある	探究テーマが継続して大学においても取り組めるものであること。	1.ある	大学においても取り組みめる探究活動のテーマの例	研究テーマの見つけ方について講演をお願いできないか。
29高校	教諭	1.関心がある	テストの点数によらない選考であること。	1.ある		
30高校	教諭	3.どちらでもない(現状で判断できない)		2.ない		
31高校	教諭	1.関心がある	探究活動の成果として、どのようなポイントを選抜の際に評価しているのか。個人の能力だけでなく、研究テーマ(内容)も選抜においては評価の対象になるのか。	3.どちらでもない(判断できない)	探究学習を進路指導へつなげる具体的な方法。3年生の探究ではどのようなことに取り組みればよいのか。	探究活動を活用した選抜方法で入学した学生と、一般選抜で入学した学生でどのような違いが現れるのか。今後、どのような選抜等の探究活動を活用した選抜は拡大されていくのか。

32高校	教諭	1.関心がある	「探究学習の成果の程度」や「探究内容と進学先との一貫性」をどの程度大 学は入試や大学生活において重要視さ れているのでしょうか。	1.ある	探究学習の成果を選抜の可否の資料と して使用される場合、どのように資料 を合否に結び付けられているのか可 能であれば知りたいです。 大学で研究活動を実施されるにあた り、高校へはどのような学習を求めま すか。	総合型選抜、学校推薦型選抜（公募 制）、学校推薦型選抜（指定校制）、 一般選抜など、様々な選抜形態での入 学者ごとに、大学生活における特徴、 成績、就職先、就職後の活躍等に何か 特徴があるでしょうか。
33高校	教諭	3.どちらでもない（現 状で判断できない）		1.ある	他高校の状況を聞いてみたい。	
34高校	教諭	3.どちらでもない（現 状で判断できない）		3.どちらでもない（判 断できない）	探究成果の報告（レポートやスライ ド等）が必須となる学部学科があるのか 知りたい	探究成果の報告（レポートやスライ ド等）が選抜試験で評価の対象になり う るのか
35高校	教諭	1.関心がある	どのような点を大学は重視しているの か。	1.ある	総合型選抜を受験する生徒の指導にあ たる教員に時間的余裕があまりないこ と。	高校の探究学習でどのような力をつけ ることを大学は望んでいるのか。
36高校	臨時教諭	1.関心がある	大学の工業高等学校に対する期待	2.ない	工業高等学校での特質を活かした積極 的な入試への取り組み、進路実績を上 げていくために何をすべきか。	工業高等学校生に求める資質

大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について ～コンソの認知・イメージアップ施策検討用「加盟校教職員へのアンケート調査」に向けて～

7月企画運営委員会

中長期計画Ⅱ期（柱4）
「加盟校が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築」

【アンケート目的】

教職員・学生・地域社会のステークホルダー等に対するコンソの認知度向上、イメージのアップのため
の事業設計、広報活動等に生かすため

【アンケート活用】

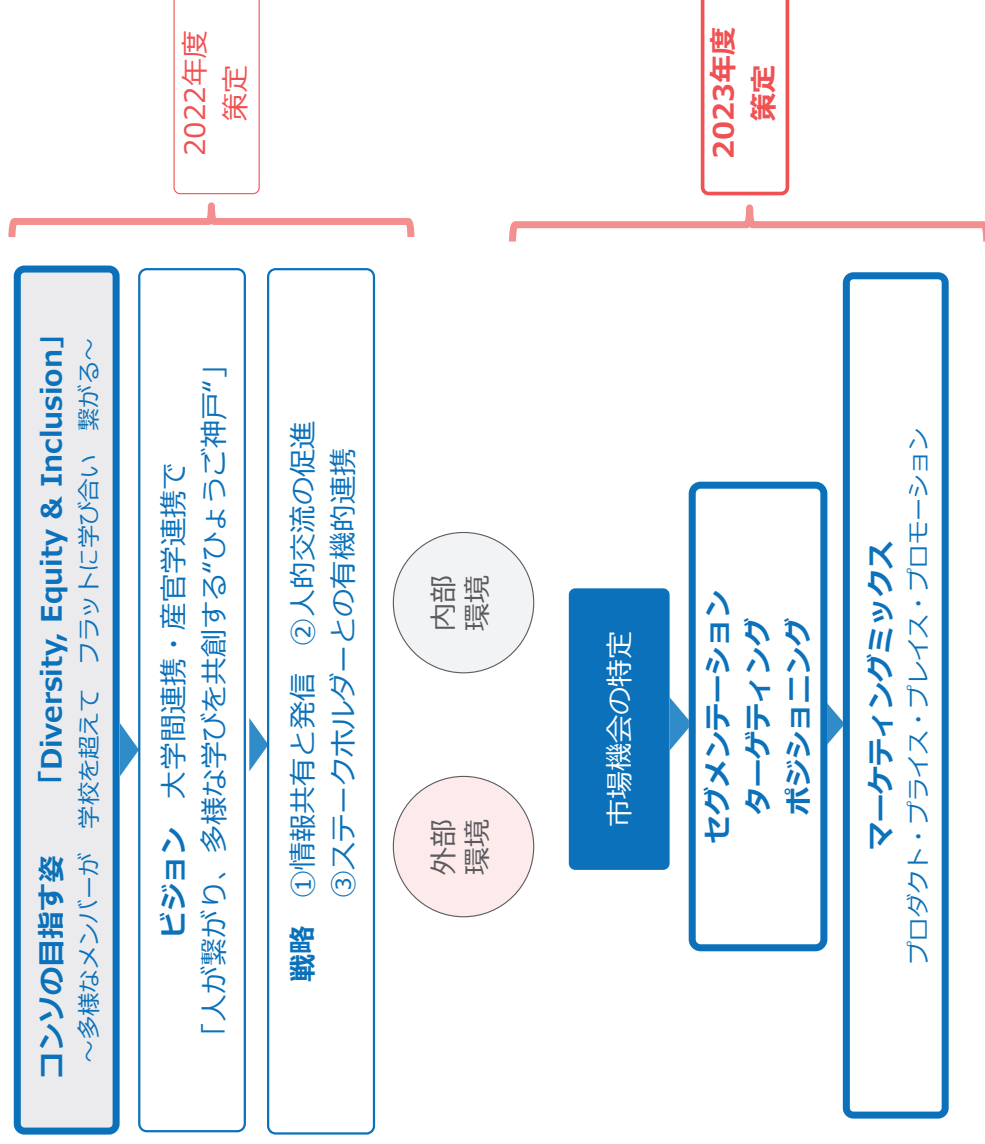
- 現状把握することで今後の効果的な情報発信施策に活用
- 理想ターゲット層を増やす施策の立案

※ターゲットペルソナのカスタマイザー（別紙参照（お手隙時にお目通し下さい））



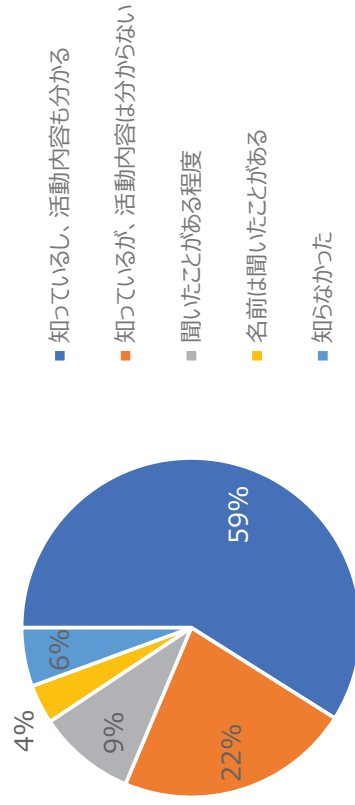
【成果】※短期目標は10月末

- 市場機会を特定し、（神戸PF等との）差別化
- ステークホルダーにおけるコンソの認知・理解・関与を高める



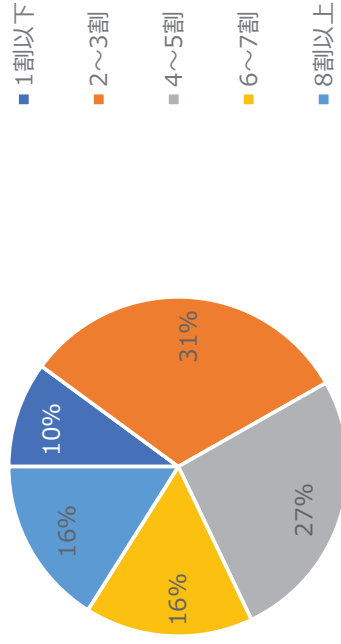
※実行・モニタリングでPDCA回す

教職員における大学コンソーシアムひょうご神戸の認知



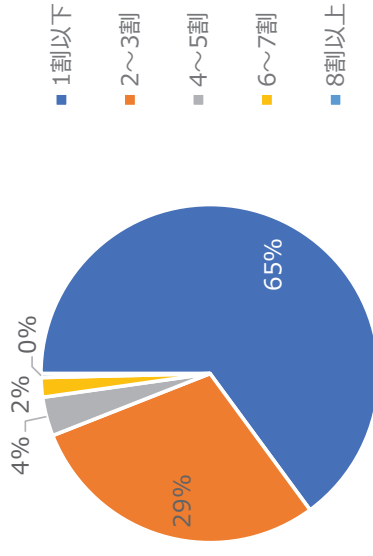
- 職員・教員におけるコンソソ認知は81%、理解度は59%。想定より認知されている状況。
- 特に一般職員の課長以下には、一定の認知があると言える（合計38%）
また教授も合計17%認知されており、“知っている人は知っている”状態。

自大学の「職員」の何割が、コンソソを認知していると思うか？



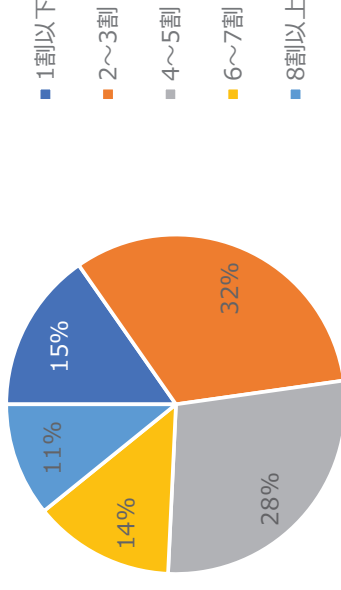
- 最も多いのが「2～3割」と回答（32%）。次いで、「4～5割」と回答（26%）。多くはないが、一定数の職員が知っていると感じている。

自大学の「学生」の何割が、コンソソを認知していると思うか？



- 過半数となる65%の人が「1割以下」と回答。
自大学の学生には10%も知られていないと認識されている。

自大学の「教員」の何割が、コンソソを認知していると思うか？



- 最も多いのが「2～3割」と回答（32%）。次いで、「4～5割」と回答（28%）。多くはないが一定数の教員が知っていると感じている。

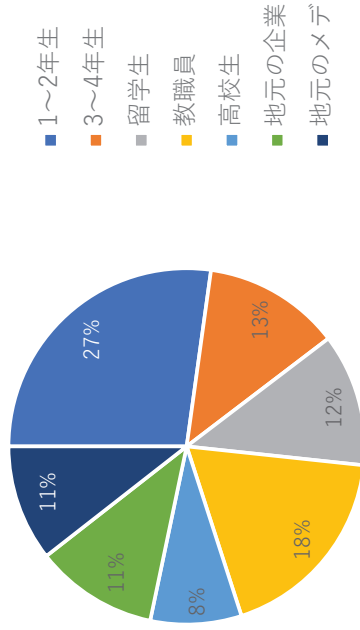
アンケート結果まとめ②

コンソの強み・特長と思うもの

加盟大学数	121	13%
加盟大学の合計学生数	48	5%
留学生ネットワーク	57	6%
留学生支援の実績	62	7%
キャリア支援の実績	41	4%
大学間の交流	178	19%
イベントの企画力	63	7%
地元企業とのつながりが深い	71	8%
産学連携の実績	77	8%
高大連携の実績	32	4%
FD・SDの実績	42	5%
加盟大学の教授や学生、OBOGの活用	25	3%
加盟大学とつながりある企業やスポーツチームなどの活用	28	3%
官公庁とのつながり	68	7%

913

コンソの認知アップのため、どの層をターゲットにすべきか



- 「1～2年生」を優先すべきとの声が多い。「3～4年生」向けの声を挙げる声は限定的。
- 「総合大学の教職員」を挙げる声が多く、いかに総合大学との交流を広げるか、リソース活用ができるかが1つの鍵と言える。

コンソのイベントの告知などは、どこで行われているか

学生向けホームページ	92	15%
留学生向けホームページ	22	4%
一般公開している大学のホームページ	79	13%
学生向けにメール送信	86	14%
留学生向けにメール送信	29	5%
学内の掲示板	161	27%
キャリア支援センター内の掲示板	35	6%
大学の公式SNS	26	4%
授業内で告知	15	3%
その他	55	9%
	600	

アンケートのまとめ

課題① 認知

教職員には一定認知があるが、加盟校学生の認知は10%未満。
⇒ **学生の認知と利用促進を高めるべき！**

課題② 理解

- ・「大学間の交流」「加盟工数」「加盟工数」が強みと認識されているが、他は強みとしての認識が弱い。具体的なメ리트ポイントベースでない。
- ・「加盟大学の教授や学生、OBOGの活用」「加盟大学とつながりある企業やスポーツチームなどの活用」等を活用できていない
⇒ **強みをより活用し、効果的・効率的なアピールをすべき**

課題③ ターゲット

対象学生は、1～2年生ないし高校生向けに行うべき
⇒ **ニッチターゲットではなく早期学生からの取込みを狙うべき**

課題④ 伝え方

コンソの取組の告知は、掲示板や学内向け／一般向けホームページが主となっており、“それ以外にない”感がある。
⇒ **SNSなど、学生にもっと伝わるチャネル活用を！**

加盟校の課題

- どの大学も共通するのは、入学者の確保、資金調達が主。
- 中小規模の大学に追加で共通して入るのは、認知やブランディングが低い、事務スタッフ不足。
- どの大学も喫緊の課題を抱えており、なんとかやりくりしている現状が見られる。

コンソ参画のメリット

- メリットとして共通するのは、学生の交流（他大学の学生やナレッジ等）スタッフ目線では、職員同士の横のつながりや、研修などによる知識の補完が挙げられた。
- 私立の中小規模大学は、補助金採択のメリットも挙げられていた。
- 挙げられたメリットは教科書的なものも多く、実感値のある効果、課題解決につながるものかという意味では補助金の件を除くと、あまりないのが実情と言える。

コンソへの理想

- 全体的に、コンソへの理想像、希望はあまり挙げられなかった。
- 声としては、職員研修などスタッフ不足の解決が多く、中長期のゴールというより身近な課題解決であった。
- メリットの平等性や、大学同士がライバルでもあることから、大きく活用できる組織という認識されていない。「明確なメリット」の成功事例を作り、増やし、認識を変えることが重要。

<加盟校のメリットにつながるコンソの役割>

≡コンソのプレゼンス向上につながる取組みの方向性

1. PR・プロモーション

…各大学の認知度の向上・PR強化が入学生の確保や外部資金の調達に繋がること。

- ① 学生によるSNSアカウント運用 ② 共同開講

アンケートでも必要性は
示されていたもの

2. 学内業務の効率化

…若手職員に対して研修や、ナレッジの共有や機会提供、緊急時対応など

- ① FD・SDの共通化 ② 共同調達 ③ 大学で働く契約職員の人材紹介

新たに必要性として
検討すべきこと

3. 外部資金の調達

…補助金や企業等から外部資金を獲得すること

- ① 補助金・助成金サポート

<補足>

「学生同士の交流」「学生の学びの幅を広げる」ことは、一定できている、ベースとしてある認識。＝事業として最低限の位置づけに近い。ここを担保した上で、出資者である加盟校が実感値としてのメリットを感じる必要がある。